

バイオダイバーシティ

大塚グループ生物多様性方針

基本的な考え方

生物多様性がすべての事業活動になくてはならない自然資本であるとの認識のもと、自然の恩恵を受ける社会の一員として、豊かな自然を次世代につなぐ持続可能な社会の実現にむけて事業活動における生物多様性への影響に配慮し、保全と回復に取り組めます。

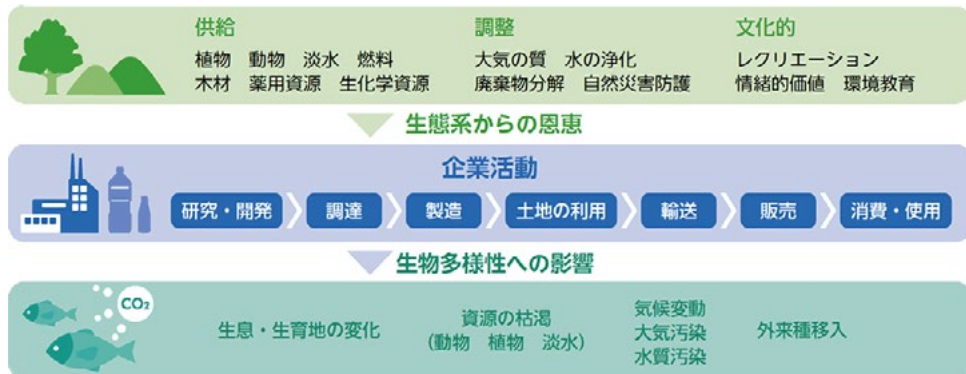
活動指針

1. バリューチェーン全体の事業活動と生物多様性との関わりを明らかにし、生物資源の保全と持続可能な利用を推進します。
2. 生物多様性に配慮した製品や技術の開発を推進し、自然への負荷低減に努めます。
3. 生物多様性に関する国際的な合意の尊重と、条約・法令を遵守し、遺伝資源の適切な入手とその利用、そしてこれに生ずる利益の公正かつ衡平な分配を行います。
4. 行政機関、地域住民、NGOなどの様々なステークホルダーとコミュニケーションを図るとともに地域社会と連携・協力し、生物多様性の保全と回復に取り組めます。
5. 事業活動と生物多様性の関わりについての意識向上をはかり、保全活動の推進に努めます。

(2024年4月改定)

生物多様性と事業活動の関わり

大塚グループは、生物多様性がすべての事業活動になくてはならない自然資本であると認識し、自然の恩恵を受ける社会の一員として、豊かな自然を次世代につなぐ持続可能な社会のため、生物多様性の保全と回復に取り組めます。



地域の生態系に配慮した事業活動

自然保護への取り組み

大塚グループは、法令に基づいた動植物の保全のほか、地域に根ざした自然の保護などに取り組んでいます。生産拠点を有する国内外の事業会社に毎年環境アンケートを実施し、法律など(IUCN保護地域管理カテゴリー、ラムサール条約、国内法令)で定められた保護すべき動植物は生息についての法令遵守状況や保護活動の実施有無をモニタリングしています。また生物多様性方針・活動指針を改定し、事業活動における自然への依存と影響を評価していくため、自然関連財務情報開示タスクフォース(Taskforce on Nature-related Financial Disclosures: TNFD)に沿った「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「目標と指標」に関する情報開示を行っていく予定です。今後も工場周辺地域における生態系リスクの把握および対策に努めていきます。

ビオトープ*の設置

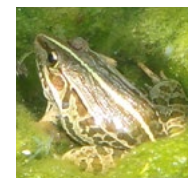
大塚グループでは、大塚製薬 徳島板野工場と岡山大鵬薬品の工場にビオトープを造成しています。工場から排水される冷却水などを再利用し、自然を再現した水路に排水しています。水辺には四季折々の草花や昆虫、野鳥が飛来し、自然との共生を実現しています。

* 工場の設立等によって失われた生態系を復元し、本来その地域に住む生物が生息できるようにした空間のこと

大塚製薬 徳島板野工場に生息する生物



大塚製薬 徳島板野工場



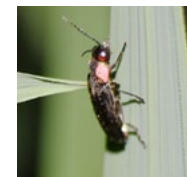
トノサマガエル
(徳島県版レッドリスト
絶滅危惧IB類)



タガメ
(徳島県版レッドリスト
絶滅危惧IA類)



カワバタモロコ
(徳島県版レッドリスト
絶滅危惧IA類)



ヘイケボタル